

農林水産商工常任委員会提出資料

(平成26年10月9日)

項目	ページ
1 農業水利施設を活用した小水力発電所の開所式について 【農地・水保全課】	1
2 台風11号による白ねぎの被害概況について 【とっとり農業戦略課】	2
3 主要農産物の生産販売状況について 【生産振興課】	3
4 平成26年度のイネいもち病発生状況について 【生産振興課、病虫害防除所】	4
5 「とっとり肉フェスタ2014」の開催結果について 【畜産課】	5
6 とっとり里山資本主義フォーラムの開催について 【林政企画課】	7
7 ナラ枯れ及び松くい虫被害の発生状況について 【森林づくり推進課】	8
8 平成26年上半期における水産物の水揚状況について(速報値) 【水産課】	10
9 クロマグロ水揚げ実績及び資源管理について 【境港水産事務所】	12
10 「とっとり・おかやま新橋館」のオープニング等の概要について 【販路拡大・輸出促進課】	13
11 農林水産物等輸出に係る取組み状況について 【販路拡大・輸出促進課】	15
12 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について 【農地・水保全課、県産材・林産振興課】	16

農 林 水 産 部



農業水利施設を活用した小水力発電所の開所式について

平成26年10月9日
農地・水保全課

平成24年度から建設を進めていた、^{せんじょうざん}船上山発電所及び^{なんごく}南谷発電所が下記のとおり供用開始します。

これにより、売電収益を農業水利施設の維持管理費に充当することで、土地改良区の負担軽減を図ることができます。

記

<船上山発電所：新設>

- 1 発電開始日 平成26年11月4日（予定）
- 2 発電所の概要
 - (1) 規模 最大出力 110kw
 - (2) 年間発電量 799Mwh相当
 - (3) 事業期間 平成24年度～平成26年度
- 3 開所式
 - (1) 日 時 平成26年11月中旬で日程調整中
 - (2) 場 所 東伯郡琴浦町^{やまかわ}山川（船上山ダム下流の広場）
 - (3) 主催者 琴浦町（発電事業者）
 - (4) 出席者 中国四国農政局、鳥取県、関係市町村、地元関係者他

<南谷発電所：更新>

- 1 発電開始日 平成26年11月下旬
- 2 発電所の概要
 - (1) 規模 最大出力 90kw
 - (2) 年間発電量 642Mwh相当
 - (3) 事業期間 平成24年度～平成26年度
- 3 開所式
 - (1) 日 時 平成26年11月下旬で日程調整中
 - (2) 場 所 倉吉市関金町^{たいぎゅうじ}泰久寺（大山池上流の広場）
 - (3) 主催者 天神野土地改良区（発電事業者）
 - (4) 出席者 中国四国農政局、鳥取県、関係市町村、地元関係者他

<参考：下蚊屋発電所>

日野郡江府町に建設中の下蚊屋発電所は平成27年3月末に発電開始予定

台風11号による白ねぎの被害概況について

平成26年10月9日

とっとり農業戦略課

8月10日（日）の台風11号の通過に伴う白ねぎの被害概況について、下記のとおりとりまとめましたのでご報告します。

記

被害概況

品目名	被害規模	被害額	市町村	被害状況等
白ねぎ	1.35ha	9,136千円	米子市	倒伏等により軟腐病が発生したことに伴う減収
	1.35ha	9,171千円	境港市	
	0.01ha	69千円	日吉津村	
合計	2.71ha	18,376千円	3市村	

主要農産物の生産販売状況について

平成26年10月9日
生産振興課

1 水 稻

(1) 作柄概況

5月～7月の高温・多照で生育は進み、穂数がやや多く確保され、全籾数は平年よりやや多くなった。しかし、8月の日照不足等で登熟不良の傾向となり、さらに、いもち病の発生が多かったことなどから、9月15日現在の作況指数は97（やや不良）と見込まれた（中国四国農政局鳥取地域センター公表）。 ※登熟：籾の充実具合

(10アール当たり)

区 分	予想収量(kg)	平年収量(kg)	作況指数(作柄)
鳥 取 県	497	514	97 (やや不良)
中国地区	495	517	96 (やや不良)
全 国	537	530	101 (平年並み)

(2) 収穫・品質検査成績の概況

ア 8月の日照不足、低温等で登熟は遅れ気味となったが、収穫は平年並みのペースで進んでいる。

イ 9月15日現在の水稻うるち玄米の1等米比率（全農扱い分）は37%で、昨年同期の25%より高いが、検査進度は全体の1割以下で、今後大きく変動する可能性がある。

品質低下の主な要因としては、登熟期の日照不足等による乳白等の未熟粒発生、充実不足があげられる（生産振興課調べ）。

2 梨

(1) 「二十世紀梨（露地）」の販売状況

8月26日から始まった二十世紀梨の出荷は、9月19日で概ね終了した。春の降霜により収穫量が減少した園もあるが、県全体の販売数量は前年比98%、単価は前年比106%（市場進物を含む単価）であった。

また、本年は中秋節が9月8日と極端に早く、台湾等への輸出が減少することが予想されていたため、国内出荷前の輸出用特別選果や中秋節後の輸出等にも取り組み、当初計画の1万ケースを上回る2万3千ケースを輸出した（H25年度：3万ケース）。

(全農とりまとめ、9月15日現在)

	H26		H25		前年対比	
	数量(t)	単価(円/kg)	数量(t)	単価(円/kg)	数量(%)	単価(%)
二十世紀梨	4,989	294	5,106	278	98	106

※H26から市場進物を含む数値となり、単価が幾分高くなっている。

→市場進物を含まない京阪神市場の単価比較では、H26:283円/kg、H25:278円/kgであり、前年対比102%

(2) 「新甘泉」の販売状況

8月22日から9月12日にかけて出荷し、市場出荷分では販売数量が174t（前年比119%）と増加している。赤秀・青秀品は基準糖度を13度以上とし、糖度センサーを整備した選果場で集約選果を行った。

本年は8月の長雨日照不足の影響で糖度が低い傾向にあり、赤秀・青秀品の割合が60%（前年79%）と下がったものの、平均単価は432円（前年比98%）と高値販売となった。

(全農とりまとめ、9月15日現在)

	H26		H25		前年対比	
	数量(t)	単価(円/kg)	数量(t)	単価(円/kg)	数量(%)	単価(%)
新甘泉	174	432	146	443	119	98

平成26年度のイネいもち病発生状況について

平成26年10月9日

生産振興課・病害虫防除所

本年はイネいもち病の発生を助長する気象条件が続き、平年に比べて葉いもちや穂いもちが多発しました。この状況を受け、穂いもち注意報および警報を発表し、JAや普及所が防除の徹底を呼びかけた結果、前回警報を発表した平成15年より被害は少ないと見込まれます。

1 いもち病とは

水稻の葉、穂などに発病する。葉に発生（葉いもち）するとイネが枯れ込み、穂に発生（穂いもち）すると、収穫量の減少、品質低下につながる。夏に曇りや雨の日が続き、気温が低い気象条件で多発しやすいため、本年は発病しやすい条件であった。

2 これまでの経過

1) 7月15日付で穂いもち注意報を発表

県全体で葉いもち発生ほ場率が平年より高かったことから、多発地区を中心に注意喚起するとともに、防除の徹底を呼びかけた。

2) 8月20日付で穂いもち警報を発表

8月以降、いもち病が多発しやすい気象が続き、穂いもちの大発生が予想されたことから、防除のさらなる徹底を呼びかけた。

3 穂いもちの発生状況（9月29日現在）

1) 早生品種（ひとめぼれ、コシヒカリ）

穂いもち発生ほ場率は35.5%と平年（12.0%）より高く、近年では前回警報が発表された平成15年（51.3%）に次ぐ発生であった。

しかし、穂いもちによる減収・品質低下がおこる中発生以上のほ場率は約8%と平成15年（20.3%）より少ない傾向であった。

2) 中生品種（きぬむすめ、日本晴等）

穂いもち発生ほ場率は29.7%、中発生以上のほ場率は約3%で、早生品種よりやや少ない傾向であった。

表1 地域別穂いもち発生状況(9/29現在)

地域	早生品種 穂いもち発生ほ場率(%)		中生品種 穂いもち発生ほ場率(%)	
	中発生以上(中～甚)	発生全体(少～甚)	中発生以上(中～甚)	発生全体(少～甚)
東部	5.7	39.8	2.4	26.4
中部	19.3	52.2	5.0	42.4
西部	2.2	20.3	0	18.5
県計	7.6	35.5	2.6	29.7

注)値については速報値であり、確定値ではない(甚発生面積等調査中のため)。

注)穂いもち発生程度別基準:発病穂率(%) 少:1～10、中:11～30、多:31～60、甚:61～

3) 穂いもちによる直接的な減収率

現時点での調査結果から、直接的な減収は1%未満と推定される（平成15年は減収率3%程度）。

4 今後の対応

1) イネいもち病に関する検討会（10月6日）

JA、普及所等関係者と共に本年のいもち病の発生要因の解析および次年度の防除方針について検討。

2) 水稻栽培防除ごよみ作成に向けた意見交換会（10月23日）

JA、普及所等関係者と共に、いもち病を含む主要病害虫の防除について検討。

「とっとり肉フェスタ2014」の開催結果について

平成26年10月9日
畜産課

「鳥取和牛オレイン55」、「大山ルビー」や「鳥取地どりピヨ」などのブランド肉やジビエなどの、県産肉にこだわった初のイベント「とっとり肉フェスタ2014」（同実行委員会主催）が9月20、21日に開催されました。

両日とも天気に恵まれ、初日の10時のオープンから多くの方の来場で賑わい、各ブランド肉の試食はもとより、肉料理の屋台19店舗には多くの行列ができ、午前中で料理が完売になる店舗ができるなど大盛況であり、2日間で当初の予想を大幅に上回る2万5千人の来場となりました。

- 1 開催日 平成26年9月20日（土）、21日（日）
- 2 場所 地産地消プラザ「わったいな」 鳥取市賀露町西3丁目323
- 3 実施主体 主催／「とっとり肉フェスタ」実行委員会
共催／株式会社食のみやこ鳥取 後援／鳥取県 協力／鳥取市

4 概要

(1) 試食・販売

- ・ 県産ブランド肉の試食では、「鳥取和牛オレイン55」や「大山ルビー」及び「鳥取地どりピヨ」の焼肉や「鹿肉」のスモーク、さらには、A5ランクの鳥取和牛のモモ肉の丸焼きが提供された。
- ・ 「鳥取和牛オレイン55」は、他の国産牛肉との食べ比べアンケートを400人に行い、舌触りや風味の良さについては8割以上の方から良い評価をいただいた。
- ・ 肉料理の屋台村では、19店舗が26品目以上の様々な料理を提供され、「鳥取和牛オレイン55串」などの串焼きには長蛇の列ができるなど、他の料理も順番待ちの状況となり大盛況であった。出店者からは「来客数が予想以上だった」「次回も呼んでほしい」「これからも鳥取の肉をPRしていきたい」などの感想があった。

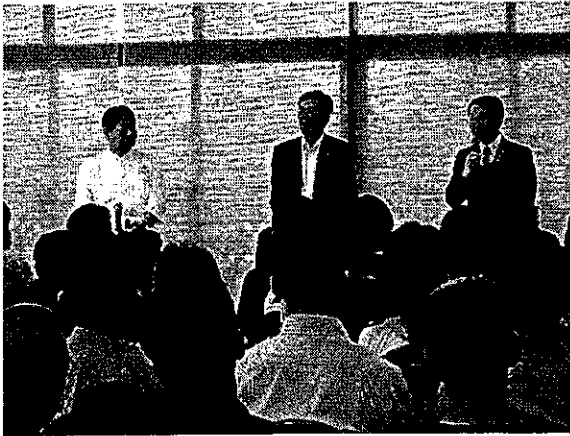


(2) 料理教室

- ・ 食育活動を展開する「ベジスタ」による料理教室では、10組20名の親子が参加されるとともに、若桜町「つくしんぼ」の平口さんによる親子で楽しめるソーセージ教室（20名×4回）も大盛況であり、親子で楽しんでいただいた。



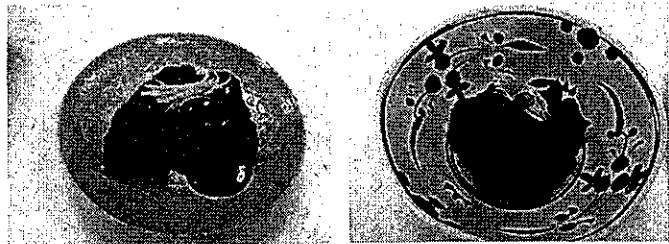
(3) 講演・対談及び料理教室



- ・ 京都の老舗料亭「菊乃井」のご主人村田吉弘氏と鳥取市の和牛生産農家谷口達雄氏や平井知事を交えての対談では、鳥取の和牛肉について語っていただき、谷口氏が、鳥取の和牛肉の良さや生産に工夫を重ね消費者に自信を持って提供していると話せば、村田氏からは、日本各地の和牛肉を比べて鳥取の和牛肉を扱うことに決めたことなどの話があった。
- ・ 対談に引き続いて行われた料理教室では、「和風ローストビーフ」やローストビーフで残った蒸し地を使った「雷こんにゃく」をつくるとともに、参加者にはローストビーフを試食していただき、村田氏の料理のコツなどのお話と実際の料亭の味を堪能していただいた。

(4) 食育学習会

- ・ プレイメントとして、8月に小学生の親子55名の参加で、生産農場で見た家畜が食肉処理施設でどう処理されるかを学習する食育学習会を開催し、鳥取県で生産される食肉の理解を深めていただく良い機会となった。
- ・ また、それぞれの小学生が夏休みの自由研究としてまとめ、本フェスタで掲示され、優秀作品には表彰等行った。



<和風ローストビーフ>

<雷こんにゃく>



※食育学習会後のアンケート結果等

「今後も食育学習会は必要か」という問いに対し、親子ともに8割が「とてもそう思った」と回答。

「牛を育てるところからお肉になるまでがよく分かった」「命の大切さを子供なりに実感することができ、感謝して食べる気持ちが養われた」といった感想も寄せられた。

とっとり里山資本主義フォーラムの開催について

平成26年10月9日
林政企画課

鳥取県の魅力や価値を見つめ直し県内外に発信することで、県民に地域の資源を活かして地域を豊かにしていこうとする意識啓発を行い、多くの人が里山資本主義先進地とっとりにおける担い手やその仲間となり、鳥取県全体が豊かになっていく契機とするために県内外の先進的な実践報告や講演会、トークセッション等を行う「とっとり里山資本主義フォーラム」を開催します。

- 1 日 時 11月15日(土) 午後1時～4時30分
- 2 会 場 日南町総合文化センター(鳥取県日南町霞785番地)
- 3 主 催 とっとり里山資本主義フォーラム実行委員会
- 4 共 催 鳥取県、日南町
- 5 参加者 県民及び県内外の里山資本主義実践者等約500名(予定)

6 フォーラム概要

(1) 実践報告

- ①日南町の林業活性化の取組(鳥取県日南町)
- ②西粟倉村・森の学校の取組(岡山県西粟倉村)

(2) 激励の言葉

石破茂 地方創生担当大臣(予定)

(3) 基調講演会

演 題「私の里山ライフ～命あふれる里山～」(予定)
講 師：高木 美保氏(タレント)

(4) ももてなしトークセッション

出演者：高木 美保氏(タレント)
伊原木 隆太氏(岡山県知事)
平井 伸治氏(鳥取県知事)

コーディネーター：上田 まりえ氏(日本テレビアナウンサー、とっとりふるさと大使、境港市出身)

(5) 大会宣言

里山活性化の機運を更に盛り上げながら、各活動を展開していくことを宣言。

(6) その他

当日は、会場周辺で、JA鳥取西部日南支所主催の「にちなん農協まつり」、日野川流域林業まつり実行委員会主催の「平成26年度日野川流域林業まつり」が開催予定。

ナラ枯れ及び松くい虫被害の発生状況について

平成26年10月9日

森林づくり推進課

このたび、県内におけるナラ枯れ及び松くい虫被害の発生状況調査を実施し、各市町村における被害状況を下記のとおりとりまとめましたので報告します。

1 ナラ枯れ被害について

(1) 調査概要

8月下旬に全県において、各市町村及び県地方事務所職員により地上からの被害状況調査を行ったほか、緊急対策区域（県中部以西）においては、9月10日～12日にヘリコプターによる被害木空中探査を実施した。

(2) 被害発生状況（9月上旬現在）

緊急対策区域において実施したヘリコプターによる被害木空中探査では、昨年度と同様の市町においてナラ類の枯損木を確認した。被害本数としては、前年度9月末と比較して一部の市町で増加しているが、緊急対策区域全体としては減少している。

また、全県的にも被害本数は減少している。

【被害本数】	H25年9月末	H26年9月上旬	前年9月末比
緊急対策区域	1,602本	765本	48%
全県	2,601本	1,372本	53%

(単位：本)

市町村	平成24年度		平成25年度				平成26年度		
	9月末	3月末	9月末	前年同期比	3月末	前年同期比	9月上旬	前年9月末比	
緊急対策区域	倉吉市	17	22	55	324%	163	741%	124	225%
	三朝町	478	478	372	78%	372	78%	166	45%
	湯梨浜町	758	758	960	127%	960	127%	129	13%
	北栄町	0	0	2	—	2	—	33	1650%
	琴浦町	0	0	6	—	6	—	31	517%
	米子市	0	0	8	—	17	—	53	663%
	大山町	0	0	195	—	271	—	160	82%
	南部町	0	0	1	—	6	—	24	2400%
	伯耆町	0	0	1	—	11	—	41	4100%
	江府町	0	0	2	—	4	—	4	200%
	計	1,253	1,258	1,602	128%	1,812	144%	765	48%
被害区域	鳥取市	1,860	1,860	786	42%	956	51%	348	44%
	岩美町	529	529	42	8%	42	8%	50	119%
	八頭町	17	17	11	65%	11	65%	8	73%
	若桜町	11	11	4	36%	4	36%	0	0%
	智頭町	87	87	156	179%	156	179%	201	129%
	計	2,504	2,504	999	40%	1,169	47%	607	61%
合計	3,757	3,762	2,601	69%	2,981	79%	1,372	53%	

注) 枯損木のみで、カシノナガキクイムシ穿入生残木は含まない。

(3) ナラ枯れ被害対策協議会の開催

9月18日に県、関係市町、国（鳥取森林管理署、米子自然環境事務所）で構成する「鳥取県ナラ枯れ被害対策協議会」を開催し、県内の被害状況について報告するとともに、関係機関が連携協力して、ナラ枯れの原因となるカシノナガキクイムシの生息密度を減少させることにより、被害の拡大を防止する基本方針を決定した。

(4) 今後の対応

県中部以西の民有林においては、市町が実施する被害木の伐採搬出、くん蒸、ビニール被覆、根株シート被覆等による害虫駆除について、ナラ枯れ対策事業（国1/2、県1/2補助）により支援を行う。

国所管地の被害木は、鳥取森林管理署、米子自然環境事務所等が現地踏査・確認し、伐採搬出、くん蒸、ビニール被覆、根株シート被覆等による駆除を行う。

2 松くい虫被害について

(1) 調査概要

8月下旬に全県において、県地方事務所職員により地上からの被害状況調査を行った。

(2) 被害発生状況（8月末現在）

前年度8月末と比較して、ほとんどの市町村で被害材積は減少しており、全県の被害材積は72%に減少している。

(単位：m³)

市町村	平成24年度		平成25年度				平成26年度	
	8月末	3月末	8月末	前年同期比	3月末	前年同期比	8月末	前年同期比
鳥取市	2,031	5,882	1,625	80%	4,779	81%	958	59%
岩美町	395	1,430	247	63%	1,031	72%	43	17%
東部計	2,426	7,312	1,872	77%	5,810	79%	1,001	53%
八頭町	159	832	207	130%	905	109%	163	79%
若桜町	12	27	35	292%	75	278%	29	83%
智頭町	4	19	7	175%	25	132%	45	643%
八頭計	175	878	249	142%	1,005	114%	237	95%
倉吉市	189	684	204	108%	764	112%	263	129%
三朝町	198	738	231	117%	441	60%	386	167%
湯梨浜町	49	294	78	159%	623	212%	82	105%
北栄町	39	518	30	77%	459	89%	14	47%
琴浦町	116	1,038	348	300%	970	93%	89	26%
中部計	591	3,272	891	151%	3,257	100%	834	94%
米子市	458	4,629	420	92%	3,728	81%	416	99%
境港市	71	447	82	115%	438	98%	80	98%
日吉津村	4	165	18	450%	130	79%	14	78%
大山町	117	1,341	243	208%	1,283	96%	163	67%
南部町	316	2,511	186	59%	2,976	119%	47	25%
伯耆町	47	903	35	74%	749	83%	96	274%
西部計	1,013	9,996	984	97%	9,304	93%	816	83%
日南町	24	93	23	96%	81	87%	10	43%
日野町	10	36	9	90%	31	86%	7	78%
江府町	6	23	5	83%	20	87%	4	80%
日野計	40	152	37	93%	132	87%	21	57%
合計	4,245	21,610	4,033	95%	19,508	90%	2,909	72%

(3) 今後の対応

造林事業や松くい虫等防除事業を活用し、県及び市町村で駆除区域を分担し、松くい虫による被害木の伐採搬出、破砕又はくん蒸により徹底した駆除を行う。

平成26年上半期における水産物の水揚状況について(速報値)

平成26年10月9日
水産課

平成26年1月から6月までの県内漁港全体での水揚量は63,775トンで、前年同期に比べ6.6%減少しましたが、水揚金額は12,328百万円で16.3%増加しました。

1 漁業種類ごとの水揚状況(1~6月)

(1) 沖合底びき網漁業：水揚量3,937トン(前年同期比6.3%増)、水揚金額1,857百万円(8.0%増)

○ズワイガニ：資源量の回復を目的として、親がこと若松葉がにの漁期を短縮したことにより、水揚量227トン(28.8%減)、水揚金額360百万円(13.9%減)。

○ハタハタ：資源保護のための小型魚自主規制等により比較的安定しており、水揚量1,013トン(11.4%減)、水揚金額276百万円(10.4%増)。

(2) 沿岸漁業：水揚量2,573トン(前年同期比13.1%増)、水揚金額1,351百万円(27.3%増)

○サワラ：昨年の不漁から一転平成25年生まれの来遊が多く海況もよかったことから、水揚量398トン(784%増)、水揚金額277百万円(576%増)。

○ハマチ・ブリ：他魚種(サワラ等)ねらいで漁獲対象にならなかったことを受け、水揚量244トン(63.4%減)、水揚金額48百万円(61.0%減)。

(3) 大中型まき網：水揚量47,596トン(前年同期比10.6%減)、水揚金額5,974百万円(22.0%増)

○クロマグロ：高水温でシケが少なく佐渡沖の漁場形成が良好だったことから、水揚量1,238トン(67.3%増)、水揚金額1,102百万円(26.5%増)。

○マイワシ：平成25年生まれの資源状況は良好と考えられるが、漁場が形成されなかったことから、水揚量743トン(97.0%減)、水揚金額53百万円(96.0%減)。

(4) ベにずわいかにかご：水揚量5,787トン(前年同期比10.7%増)、水揚金額1,269百万円(22.7%増)

○ベニズワイガニ：漁獲サイズの資源が増加傾向にあることから、水揚量、水揚金額が増加。

(単位：トン、百万円)

区 分		平成25年	平成26年	対前年差	対前年 増減率(%)	備考	
県内漁港での 水揚合計		68,306 (64,335)	63,775 (59,430)	△4,531 (△4,905)	△6.6 (△7.6)		
()は境漁港の水揚げで内数		10,599 (8,718)	12,328 (10,194)	1,729 (1,476)	16.3 (16.9)		
漁業 種類ごとの 県内漁港での 水揚 状況	沖合底びき網漁業	水揚量	3,704	3,937	233	6.3	【主な魚種】 アカガレイ、ハタハタ、ズワイガニ
		水揚金額	1,719	1,857	138	8.0	
	沿岸漁業 (刺網、小底、定置網等)	水揚量	2,274	2,573	299	13.1	【主な魚種】 ハマチ、アジ、サワラ、カワハギ、 アカイカ
		水揚金額	1,061	1,351	290	27.3	
	大中型まき網	水揚量	53,238	47,596	△5,642	△10.6	【主な魚種】 マイワシ、サバ、アジ、クロマグロ ※ 中型まき網を含む
		水揚金額	4,895	5,974	1,079	22.0	
	ベにずわいかにかご	水揚量	5,230	5,787	557	10.7	【主な魚種】ベニズワイガニ
		水揚金額	1,034	1,269	235	22.7	
	その他(県内漁港への県 外漁業者の水揚量)	水揚量	2,984	2,809	△175	△5.9	
		水揚金額	1,554	1,410	△144	△9.3	
【参考】 沖合いか釣り (県内漁業者の水揚量) ※ 県外漁港へ水揚げしたものを含む	水揚量	876	1,073	197	22.5	【主な魚種】 スルメイカ、ケンサキイカ ※ 小型いかつり漁業による水揚	
	水揚金額	336	467	131	39.0		

2 平成25年・26年上半年期における県内水産物の単価比較

【沿岸漁業】

主要魚種	H26 漁獲量(t) 金額(百万円)	単価(円/kg)		前年度増減率 (%)	前年度比較
		H25	H26		
ハマチ・ブリ	244 (48)	185	198	7.1	⇒
カタクチイワシ	7 (1)	89	176	98.3	↘
アジ類	163 (89)	557	545	△ 2.3	⇒
サワラ	398 (277)	906	695	△ 23.2	⇒
サザエ	38 (23)	624	608	△ 2.5	⇒
カワハギ類	51 (15)	264	292	10.3	⇒
マダイ	60 (41)	652	677	3.9	⇒
メタガレイ	12 (9)	685	732	6.9	⇒
トビウオ	112 (32)	175	282	60.8	↘
ヒラメ	21 (20)	1,045	958	△ 8.3	⇒
ケンサキイカ(沿岸)	23 (24)	896	1,069	19.4	⇒
スルメイカ(沿岸)	1,233 (519)	398	421	5.6	⇒

【沖合底びき網漁業】

主要魚種	H26 漁獲量(t) 金額(百万円)	単価(円/kg)		前年度増減率 (%)	前年度比較
		H25	H26		
ハタハタ	1,013 (276)	219	273	24.7	⇒
ソウハチ	381 (133)	358	351	△ 2.1	⇒
アカガレイ	1,417 (693)	483	489	1.3	⇒
ヒレグロ	190 (29)	167	155	△ 7.4	⇒
エビ類	94 (141)	1,653	1,498	△ 9.4	⇒
ズワイガニ	227 (360)	1,310	1,584	20.9	⇒

【沖合いか釣り漁業(19トン型)】

主要魚種	H26 漁獲量(t) 金額(百万円)	単価(円/kg)		前年度増減率 (%)	前年度比較
		H25	H26		
沖イカ全体	1,073 (467)	384	435	13.5	⇒
スルメイカ	1,039 (436)	400	420	4.9	⇒

【まき網漁業】

主要魚種	H26 漁獲量(t) 金額(百万円)	単価(円/kg)		前年度増減率 (%)	前年度比較
		H25	H26		
クロマグロ	1,238 (1,102)	1,176	890	△ 24.3	⇒
マアジ	10,531 (1,213)	114	115	0.7	⇒
マサバ	12,177 (1,074)	90	88	△ 2.1	⇒
マイワシ	743 (53)	53	71	35.6	↘

【べにずいわいかにかご】

主要魚種	H26 漁獲量(t) 金額(百万円)	単価(円/kg)		前年度増減率 (%)	前年度比較
		H25	H26		
べにずいわいか	5,787 (1,269)	198	219	10.9	⇒

【凡例】

↗ …前年比+30%以上

⇒ …前年比±30%以内

↘ …前年比-30%以上

クロマグロ水揚げ実績及び資源管理について

平成26年10月9日
境港水産事務所

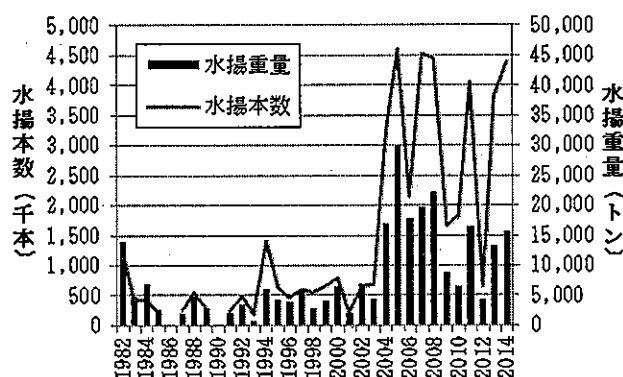
今漁期の境漁港におけるクロマグロの初水揚げは6月2日で、7月28日に終了しました。前年を上回る1,564トン（延べ40隻）で、14億円を超える水揚げがありました。

この水揚げ量は、エラ、内蔵除去後の重量であり、除去前の重量に換算し、他港に水揚げされた重量と併せると、日本海の漁獲上限である2,000トンとほぼ同量になります。

1 今漁期の水揚げ状況

〈水揚げ量・金額の対前年比〉

区分	25年	26年	対前年比
水揚げ量（トン）	1,333	1,564	117%
金額（百万円）	1,396	1,468	105%
本数（本）	38,276	43,913	115%
単価（円/kg）	1,047	939	90%
平均体重（kg）	35	36	103%
水揚げ隻数（隻）	36	40	111%



2 資源管理の取組状況

■現在の太平洋クロマグロ資源管理措置（大中型まき網漁業）

	未成魚（30kg未満）	成魚（30kg以上）
対象海域	九州西・日本海	日本海
対象漁期	10月～翌年9月	6月～8月
漁獲上限	4,250トン/年	2,000トン/年

※未成魚は、中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)の保存管理措置に基づく平成25年漁獲上限5,000トンに15%削減する措置を決定したため、平成26年は漁獲上限を4,250トンに削減。

※成魚は、WCPFCの措置に含まれていないが、自主的措置として、漁業者が漁獲上限を設定。

■今後の動向

・本年9月上旬に開催された中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)北小委員会において、以下のとおり合意に達し、12月の本委員会で勧告されることとなった。

(ア) 歴史的最低水準付近にある親魚資源量(約2.6万トン)を2015年からの10年間で歴史的中間値(約4.3万トン)まで回復させることを当面の目標とする。

(イ) 未成魚(30kg未満)の漁獲量を2002-04年平均水準から半減させる。

(ウ) 成魚(30kg以上)の漁獲量を2002-04年平均水準から増加させない措置を実施する。

〈クロマグロ漁獲実績(3年平均)〉

年	未成魚 (全国)	成魚 (全国)	太平洋 (まき網)	日本海 (まき網)	まき網以外
02-04年	8,015トン	4,882トン	2,008トン	1,090トン	1,784トン
10-12年	6,147トン	9,452トン	174トン	1,266トン	8,012トン

「とっとり・おかやま新橋館」のオープニング等の概要について

平成26年10月9日
東京本部
販路拡大・輸出促進課

9月28日にオープンした「とっとり・おかやま新橋館」のオープニング等の概要について、報告します。

1 オープニングイベント

- (1) 日時 平成26年9月28日(日)
- (2) 出席者 石破地方創生担当大臣、野田鳥取県議会議長、小田岡山県議会議長、
女優 司葉子、料理研究家 有坂翔太
- (3) 概要 ・両県知事挨拶、石破地方創生担当大臣祝辞、香川・愛媛両県知事からのメッセージ披露
・オープニングイベント：両県の食材を使用した料理を試食しながら両県の魅力についてトークショーを展開
(出演者：両県知事、女優 司葉子、料理研究家 有坂翔太)
(試食料理：北条ワイン、岡山の地酒、白バラ牛乳、ジャージーアイス、下津井タコ、カニミソ)
- (4) その他 ・開店時の10時には、店頭で約450人の行列ができていた。(ピーク時は600人)
・梨ジャムと桃ジャムをセットにした先着記念品(300人分)は、開店40分後には全てなくなった。
- (5) 内見会・レセプション
オープン前日の9月27日(土)に内見会及びレセプションを開催した。
内見会では、国の鳥取県関係者や他県の東京事務所、首都圏バイヤーなど約350人が来店し、アンテナショップ内を視察していただくとともに、販売商品の説明を行った。
レセプションでは、両県選出国會議員、両県議會議員、市町村長、経済団体代表者など約150人が出席し、飲食店「ももてなし家」の料理と両県の地酒等を楽しんでいただきながら、アンテナショップの機能紹介や両県の特産品のPRを行った。

2 オープン3日間の来店者数

9月28日(初日)	3,873人
29日	2,239人
30日	2,194人
計	8,306人

※参考「食のみやこ鳥取プラザ」(平成20年8月29日オープン)のオープン3日間 2,266人

※物販や飲食目的のみならず、鳥取県への旅行相談や就職相談、移住に関する情報収集のために来店される方が毎日のようにおられた。

3 目標来店者数と売上高目標

来店者数：50万人/年 売上高：5億円/年

4 来賓・お客様の声

- お客様 ・「広くて、明るくて、ゆったりとしていいお店。」(一番多かった声)
・「食のみやこ鳥取プラザのファンだったから、今日が待ち遠しかった。」
・「商品が増えて魅力的になった。」
・「岡山県の物を買いに来たが、梨が美味しそうだったから、鳥取の梨を思わず買ってしまった。」
・「岡山の商品を買いに来たが、つられて板わかめを買った。」
・「待ちに待ったショップがオープンして感動した。」
・「鳥取県と岡山県の物が一緒に買って良かった。」
- 石破大臣 「地方が地方を変える。それを国が支援する時代を作りたい。とっとり・おかやま新橋館を鳥取と岡山が一緒にやるのがその起爆剤となるはず。国も応援したい。」
- 加藤内閣官房副長官 「センスがよいお店。30年前倉吉税務署に勤務していたので鳥取を応援したい。鳥取と岡山でどんどん連携して欲しい。」
- 湯崎広島県知事 「広くて、明るくて、デザインも良いお店。広島県のアンテナショップとも連携していこう。」

5. オープン初日の様子



(入店を待つお客様)



(1階 店内の様子)



(2階店内の様子)



(オープニングイベント：催事スペース)



(智頭町(きなこ・ヤーコン茶)と新庄村(お餅)の連携)



(1階両県プロモーションゾーン)

農林水産物等輸出に係る取組み状況について

平成26年10月9日
販路拡大・輸出促進課

鳥取県産農林水産物等の輸出促進を図るため開催したマレーシアでの「鳥取県観光物産展」と「鳥取フェア」の開催結果及び二十世紀梨・すいかの輸出状況について、下記のとおり報告します。

記

1 マレーシア・クアラルンプールでの「鳥取県観光物産展」及び「鳥取フェア」の開催結果

(1) 鳥取県観光物産展

- 期 間 平成26年9月5日(金)～14日(日) 10日間
- 会 場 パピリオン(高級百貨店)5F TOKYO STREET 前 催事場
- 副知事トップセールス 平成26年9月11日(木)午後5時～6時
- 出展事業者及び商品

出展事業者名	主な商品
境港水産物輸出入促進協議会	紅ズワイガニ、焙り蛸烏賊、焙り甘えび、マグロからすみ
大山乳業農業協同組合	抹茶アイス、バニラアイス、20世紀梨シャーベット、チーズケーキ、牛乳もなか、珈琲もなか
有限会社クレイド	のどぐろ、はたはた
農事組合法人広岡農場	梨(二十世紀梨(露地)、新甘泉、秋栄)、梨ゼリー、梨スパークリングワイン、梨ワイン、梨ゴーフレット、梨ラングドシャ、梅ドリンク、梅リキュール、ピオーネ、シャインマスカット、白桃デザート、柚菓子、柚濃茶ブラウニー、無花果濃茶ブラウニー
鳥取県こだわり物産販売協同組合	だし、野菜パイヨン、ふりかけ、ゴボウ茶、はとむぎ茶、黒豆茶、えごま茶、大福、珈琲、梨ジュース
有限会社長田茶店	煎茶、紅茶、抹茶
中井酒造株式会社	日本酒、甘酒

○売上高 327万円

【参考：全国商工会連合会(19社)による日本物産フェア(3月1日～14日)の売上高336万円】

○出展事業者は、現地で対面販売や現地市場視察、バイヤーとの意見交換等を通じて、現地事情や個々の商品可能性について体感することができた。11月には現地バイヤーを鳥取県に招聘予定。

○好評だった商品 梨、ブドウ、梅ジュース、アイスクリーム、紅ズワイガニ(茹で)、烏賊の醤油漬け

(2) 鳥取フェア

鳥取県観光物産展開催に併せ、パピリオン5Fの高級日本料理店「勘八」等で県産品を使った料理をコース、アラカルトで提供し県産食材のPRを行った。

○期 間 平成26年9月5日(金)～14日(日)

○食 材 白いか、真鯨、紅ズワイガニ、長いも、白ネギ、大根、二十世紀梨

○売れ筋メニュー 「紅ズワイガニのサラダ」「二十世紀梨」「大根サラダ」

(3) 今後の展開(予定)

○境港水産物輸出入促進協議会、(有)クレイド、中井酒造は、今回マッチングを行った現地小売店、輸入業者等を再度訪問し商談予定。

○広岡農場が1月頃にパピリオンで物産展開催を計画中。

2 二十世紀梨・すいかの輸出状況

(1) 二十世紀梨

(単位：10kg箱)

輸出先	H26年	H25年
中国	494	0
台湾	23,390	29,965
香港	3,487	6,316
アメリカ	6,597	4,090

*H26年数量は9月29日現在での集計

(2) すいか

香港 1,100箱(大玉 690箱、小玉 410箱)

【H25年実績 286箱(大玉 156箱、小玉 130箱)】

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

【変更分】 主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	工事内容	摘要
農地・水保全課 (中部総合事務所 農林局)	船上山地区 地域用 水環境整備事業(小 水力発電所水車発電 機等製作据付)工事	東伯郡 琴浦町 山川	田中水力 株式会社 代表取締役 田中 幸太	(当初契約額) 120,645,000円	平成25年8月5日 ～ 平成26年9月30日	(当初契約年月日) 平成25年8月5日	水車・発電機および配電盤等電気設備の製作 据付工事 水車 N=1台 発電機 N=1台 配電盤・情報伝達装置等 1式	農林水産部
				(第1回変更後契約額) 122,141,880円 〔 (変更額) 1,496,880円 〕	(第1回変更契約年月日) 平成26年3月20日			
県産材・林産振興課 (中部総合事務所 農林局)	林道若桜・江府線開 設工事(助谷工区)	東伯郡 三朝町 助谷	馬野建設 株式会社 代表取締役社長 馬野 慎一 郎	(当初契約額) 103,110,000円	平成25年9月27日 ～ 平成26年3月14日	(当初契約年月日) 平成25年9月27日	林道開設 延長 L=703.7m 幅員 W=7.0m	○変更内容 ・中国電力の電線に連系する際の電圧降下を防止するための電圧変動抑制装置を追加する。 ・上記増工に伴う14日間の工期の延伸
				(第1回変更後契約額) 103,110,000円 〔 (変更額) 0円 〕	(第1回変更契約年月日) 平成26年3月10日			
				(第2回変更後契約額) 86,218,650円 〔 (変更額) Δ16,891,350円 〕	(第2回変更契約年月日) 平成26年7月14日			
				(第3回変更後契約額) 89,536,650円 〔 (変更額) 3,318,000円 〕		(第3回変更契約年月日) 平成26年9月26日	○変更内容 ・一部区間の切土法面について、夏場の降雨により表面が侵食を受け、放置すると更なる浸食の恐れがあるため、緊急的に植生マット工を施工することによる増。	

平成26年10月9日
農林水産部